

工作機械工業 収益状況集計

(2020年度 第3四半期)

会員企業のうち2020年2月末迄に2020年度第3四半期決算を公表している専業比率30%以上の上場企業16社を集計。調査対象企業における専業比率は79.6%。なお、今期は前期調査と同企業の16社で集計した。

1. 連結決算の概要

表1 連結決算の概要 (16社)

(単位：百万円・%)

	20年度	20年度	20年度	20年度	前年同期比	19年度
	I期	II期	III期	I~III期		I~III期
売上高	116,492	129,591	131,415	377,498	△ 28.2	525,675
売上総利益	30,329	32,853	33,990	97,172	△ 36.4	152,850
売上総利益率	26.0	25.4	25.9	25.7		29.1
営業利益	△1,712	600	1,622	510	△ 98.5	33,785
営業利益率	△ 1.5	0.5	1.2	0.1		6.4
経常利益	△919	1,494	3,050	3,625	△ 89.7	35,039
経常利益率	△ 0.8	1.2	2.3	1.0		6.7
当期利益	△2,625	△501	1,204	△ 1,922	—	21,972
当期利益率	△ 2.3	△ 0.4	0.9	△ 0.5		4.2
総資産	956,083	962,608	969,271	969,271	△ 2.8	997,697
純資産	587,719	589,411	593,153	593,153	△ 2.8	609,929
自己資本比率	61.5	61.2	61.2	61.2		61.1
自己資本 当期純利益率 (ROE)	△ 1.8	△ 0.3	0.8	△ 0.4		4.8

(注) 自己資本当期純利益率 (ROE) は年率換算値

表2 損益状況一覧 (連結・I~III期計・前年同期比) (16社)

(単位:社)

	増 加	減 少	合 計
売上高	1	15	16
売上総利益	1	15 (1)	16 (1)
営業利益	2 (0)	14 (5)	16 (5)
経常利益	2 (0)	14 (4)	16 (4)
当期利益	3 (0)	13 (5)	16 (5)

※()内の数字は、赤字企業数。赤字幅が縮小した場合は「増加」、赤字幅が拡大した場合は「減少」となる

2. 2020年度通期見通しの概要

表3 【第3四半期時点】連結業績予想の概要（16社）

（単位：百万円・％）

	2020年度通期見通し			2019年度実績
	第2四半期時点	第3四半期時点	前年度比	金額、比率
売上高	525,563	528,065	△ 25.4	707,855
営業利益	△963	2,401	△ 94.5	43,526
営業利益率	△ 0.2	0.5		6.1
経常利益	764	5,133	△ 88.6	45,069
経常利益率	0.1	1.0		6.4
当期利益	△6,037	△2,118	—	18,137
当期利益率	△ 1.1	△ 0.4		2.6

表4 【第3四半期時点】連結業績予想の増減（売上高、経常利益）（16社）

通期 (対前年度比)	増収増益	1社 (1社増)	増収減益	0社 (増減なし)
		減収増益	0社 (増減なし)	減収減益

※（ ）内は、第2四半期時点からの増減社数

◎第2四半期時点からの修正理由

【売上高、経常利益とも上方修正 …6社】

- ・部品加工関連事業は、客先からの仕事量増加が見込まれ、それに伴い操業度効率が良化し前回公表比、増収増益を見込む。工作機械関連事業は、売上高は想定通り推移する見込みも、原価改善により前回公表比、増益を見込む。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を慎重に見定めていたが、現時点において、海外顧客向を含め、製品の売上が概ね予定通りに進捗していることに加え、従来から推進している原価低減諸施策が奏功したことにより、業績予想を上方修正。
- ・売上高は、第3四半期において工作機械関連の受注が増加したことにより、微増となる見込み。また、これにより工場操業度が上昇、採算が改善するため、営業利益は前回予想を上回る見込み。さらに、営業外収益に助成金収入を計上したことなどにより、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益についても前回予想を上回る見込み。
- ・中国市場での需要継続や、日本及び欧米において事業活動が再開されたことにより放電加工機の販売が回復基調であり、第3四半期累計期間の業績が想定を上回ったこと及び足元の事業環境を勘案し、通期連結業績予想を修正。
- ・新型コロナウイルス感染症の収束時期等は依然として不透明な状況が続いているが、第3四半期における特機事業のフードデリバリー向けの販売や工作機械事業の中国市場向けの販売などが想定を上回る水準で推移し、第4四半期においても引き続き堅調な販売を維持する見込みであることから、売上、利益ともに前回予想を上回る見通し。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響から、経済環境は引き続き厳しい状況にあるが、経済活動の再開等によって緩やかに持ち直しの動きが見られる。当社グループにおいても、主力の工作機械事業にて国内市場の需要が緩やかに回復していることから、売上高が前回予想を上回る見通し。利益においても、売上高が想定よりも増加する見通しであることに加え、役員報酬カットなどの経費圧縮施策の成果、コロナ禍の影響による経費減少、雇用調整助成金による収入等があったことから、前回予想を上回る見通し。

【経常利益のみ上方修正 …1社】

- ・環境の変化に対応したコスト削減が想定以上に進んだため。

【売上高のみ下方修正 …1社】

- ・世界的な新型コロナウイルス感染症再拡大の影響により、国内では、工作機械業界において設備投資を控える動きが広がり、主力の工作機械部門において受注が想定以上に低調に推移した。また、海外においても、多くの都市でロックダウンが行われ経済活動が停滞し、営業活動が制約を受けたこともあり受注が伸び悩んだ。結果、前回売上高予想を大きく下回る見込み。

3. 工作機械事業セグメントの概要

表5 工作機械事業セグメントの概要 (16社)

(単位:百万円・%)

	20年度	前年同期比	19年度
	I～III期		I～III期
売上高	300,673	△ 31.4	438,097
営業利益	△523	—	32,305
営業利益率	△ 0.2		7.4
専業比率	79.6		83.3

表6 【参考】工作機械事業セグメントの概要 (23社)

(単位:百万円・%)

	20年度	前年同期比	19年度
	I～III期		I～III期
売上高	395,291	△ 29.9	563,831
営業利益	570	△ 98.6	39,890
営業利益率	0.1		7.1
専業比率	25.2		31.3

※表5の対象企業16社に加え、セグメント情報を公表している専業比率30%以下の会員企業7社を加えた23社で集計

【調査対象会員企業（順不同）】

(専業比率 30%以上の集計対象企業)

エンシュウ株式会社
浜井産業株式会社
豊和工業株式会社
小池酸素工業株式会社
株式会社牧野フライス製作所
株式会社岡本工作機械製作所
OKK株式会社
オークマ株式会社
株式会社桜井製作所
西部電機株式会社
株式会社ソディック
スター精密株式会社
株式会社太陽工機
高松機械工業株式会社
株式会社滝澤鉄工所
株式会社和井田製作所

(専業比率 30%以下の集計対象企業)

株式会社F U J I
株式会社不二越
倉敷機械株式会社（倉敷紡績株式会社）
黒田精工株式会社
株式会社三井ハイテック
株式会社オーエム製作所（ダイワボウホールディングス）
芝浦機械株式会社